

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 60
発行日 令和3年5月4日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030
飼育展示数 哺乳類:24種163点
鳥類:24種85点
爬虫類:10種101点
(令和3年4月末日現在)

元気です

世界は一向に落ち着きませんが、動物たちは元気にしています。



新任職員紹介

4月から動物公園で働き始めた職員を紹介します。



幼い頃から夢見ヶ崎動物公園で働くことに憧れていました。飼育員としてはまだまだ未熟ものですが、来園者の皆様とたくさんお話をしていけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

(飼育 岩下 茜)



4月から人事異動により夢見ヶ崎動物公園に配属になりました。初めて世話をする動物ばかりで日々勉強です。動物たちのために頑張ります。

(飼育・診療 土川玄一郎)

*公式フェイスブックはじめました。詳しくはこちらから。



★ピックアップ動物★

テンジクネズミ

哺乳綱 齧歯目 テンジクネズミ科

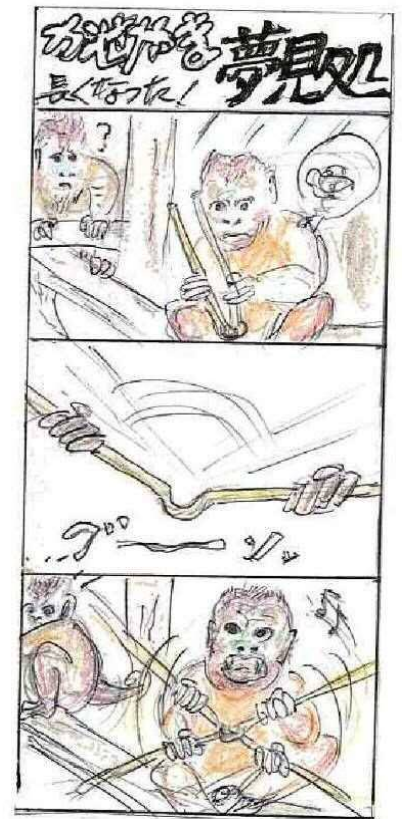
野生種は南米大陸の草原などに生息しており、このうち家畜化された種がモルモットです。4本指の前足と3本指の後足を持ち、尾はありません。歯が一生伸び続けるので、よく噛まなければいけない繊維質の多い牧草などを食べ続けて歯がすり減っても問題ありませんが、伸びる角度に癖がある個体はしばしば歯を削る処置を行い、適切な長さや角度を維持しています。実はよく鳴く動物で、エサをねだる時、警戒している時、何でもない時、嫌な時、実にバリエーション豊かな鳴き声を持っています。よくわからないまま仲間が鳴いているからつられて鳴くこともあります。注射などの治療をした直後、抗議のつもりか小さい声でぶうぶう鳴いていることも。また、人の顔もちゃんと覚えているようで、治療のため部屋に獣医が入った途端、

自分がターゲットだと察した個体はたいてい逃げ出すのですが、無関係なことがわかっている個体は我関せずの顔でくつろいでいるので、かえって目立ってしまうのはご愛敬です。



獣医の日記

先日、レッサーパンダたちの健康診断を行いました。フィラリアの予防薬を飲ませるための血液検査（フィラリアが感染していない状態でないと安全に予防薬を飲ませることができないため）に加え、麻酔をかけた状態で全身くまなく触ったり、レントゲンを撮ったり、心電図を撮ったり、耳掃除をしたり、歯のチェックをしたり、この他にもやることがたくさんです。ケイコは次の誕生日で満6歳、アンとファファは満11歳になります。動物園で暮らすレッサーパンダは長くて20年ほどの寿命なのでアンとファファは健康により注意が必要なお年頃になってきました。検査でしっかり見なければいけない項目も昔より増えています。健康診断にはこうした個体ごとの体調チェックの他にも、もうひとつ重要な意味があります。野生動物の健康に関するデータは家畜と比べてとても少なく、まだまだわからないことだらけで、動物園で飼育されている動物たちの検査結果を積み重ねていくことが彼らの未来の健康を守るための地道な手段でもあります。今はまだわからないことがわかって、治りにくいものが治るようになって、寿命も少し伸びるかもしれない。野生で生きる彼らの助けになることがあるかもしれない。そんなことを思いながらやっています。



★動物たちの主な移動(令和3年2月1日～令和3年4月30日)★

ホウシャガメ(♀1死亡)、ミーアキャット(♂1死亡)、マーコール(♂1死亡)、ミノヒキチャボ(♀1死亡)、ホルスフィールドリクガメ(♀1死亡)、パラワンコクジャク(♀1死亡)